

今週（7月16日から7月19日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は16日にTB3M発行・償還、2Y償還、18日に20Y発行等があったものの、資金需給上の大きな過不足は特段無かった。新積み期初日の16日は調達サイドに一部様子見姿勢が見られたことで、出会いレートは先週末比で小幅上昇にとどまった。17日以降は都銀を含めた邦銀・証券を中心に取り手の調達意欲が旺盛となり、レートが徐々に上昇する展開となった。3日積みとなる19日も、邦銀・証券業態からの調達で▲0.075～▲0.055%のレンジで出会いが見られるなど、堅調な地合いが継続していた。無担保コールO/N加重平均レートは、▲0.07%台後半から▲0.06%台半ばへと週後半にかけて上昇した。ターム物の出会いは1～2Wのショートタームを中心に散発的な出会いが見られた程度であった。O/N物のレート上昇を受け、ターム物も上昇基調で推移した。

固定金利方式の共通担保資金供給オペは、19日に2W・15,000億円がオファーされ、応札額2,406億円（期落ち額2,556億円）の札割れとなった。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、概ね▲0.10～▲0.08%程度の水準で推移した。週末19日は発行日にかかる取引となったことから若干上昇した。

SC個別銘柄では、5年132～140、10年336～355、20年160～169、30年55～63、40年7～12などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、店頭での買いが入ったことからか、全般的に堅調に推移する展開となった。特に、年末を跨いでの償還となる6M物は、▲0.260%での出会いも見られるなど強含みで推移した。一方、3M物については一定の買いは見られたものの、▲0.145%近辺での出会いに終始するなど、落ち着いた水準にとどまった。

17日に実施された短国買入オペは、2,500億円でオファーされた。平均落札利回較差+0.009%、按分落札利回較差+0.008%と、在庫調整の売りから弱めの結果となった。

18日に実施された1Y物の入札は、WI取引において▲0.190%から▲0.210%まで買い進まれる展開となる中、平均落札利回▲0.1971%、按分落札利回▲0.1931%と、WI取引を反映して落ち着いた結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.205～▲0.198%出会いと堅調に推移した。

19日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.148～▲0.145%で出合う展開となったものの、平均落札利回▲0.1407%、按分落札利回▲0.1303%と、テールが流れる結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.135～▲0.130%出会いと按分レート近辺で推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、鉄鋼、小売、石油・石炭、ノンバンク等の複数業態でまとまった額の調達が散見され、週間発行総額は6,300億円程度と償還額4,800億円程度を上回った。市場発行残高は、先週末に今年2月末以来の21兆円台を達成し、直近18日には21兆円1,000億円程度まで伸長し、リーマンショック後のピークとなった1～2月の21兆2,000億円台に迫っている。特にその他金融法人の残高は7月に入ってさらに伸長し、一時は10兆4,000億円目前に拡大するなど過去最高を更新している。一般事業法人も8兆3,000億円程度と高水準にある。ただ、いずれの業態においても特定の銘柄が発行残高を積み増す傾向にあり、銘柄が広がっているとは言いがたい状況となっている。その為、発行残高が拡大する中でも、発行頻度の低い物、発行残高の少ない物は引続きマイナス圏で取引された。発行残高が積みあがっている銘柄に関しても、優良銘柄では投資家や業者の買い余力はまだ十分にあるとみられ、引続き浅いマイナスから0%近辺の狭いレンジで決着している。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
7/15 (月)						
7/16 (火)	21,535.25	△ 0.125	107.95	△ 0.072	△ 0.091	4,022,700
7/17 (水)	21,469.18	△ 0.130	108.17	△ 0.066	△ 0.098	4,028,200
7/18 (木)	21,046.24	△ 0.140	107.70	△ 0.065	△ 0.098	4,017,200
7/19 (金)	21,466.99	△ 0.140	107.50	△ 0.064	△ 0.088	4,024,700

来週（7月22日から7月26日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定	海外主要経済指標
7/22 (月)			
7/23 (火)	月例経済報告(内閣府)	40Y 4,000億円 7/24発行	6月の米中古住宅販売
7/24 (水)	5月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)	交付税借入 10,500億円 8/1借入	6月の米新築一戸建て販売件数
7/25 (木)	6月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)	2Y 20,000億円 8/1発行	ECB定例理事会(金融政策発表) 6月の米耐久財新規受注
7/26 (金)	7月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 43,200億円 7/29発行	4-6月期の米GDP速報値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
7/22 (月)	600	▲ 100	500	全店共通 CP買入 ETF買入	▲ 2,600 ▲ 600	2,400 100	▲ 700	▲ 200	TB3M発行▲42700償還43000 TB1Y発行▲19000償還13700 流動性供給▲4000 変動15Y償還3800 エネルギー対策借入▲7000期日7000
7/23 (火)	▲ 1,000	2,000	1,000	社債買入		1,300	1,300	2,300	
7/24 (水)	0	▲ 3,000	▲ 3,000				0	▲ 3,000	40Y発行▲4000
7/25 (木)	▲ 1,000	10,000	9,000				0	9,000	交付税借入▲10500期日10500
7/26 (金)	▲ 1,000	2,000	1,000				0	1,000	
週間合計	▲ 2,400	10,900	8,500	—	▲ 3,200	3,800	600	9,100	

7/22は日銀予想、7/23以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、資金需給的に大きなずれもなく、引続き堅調な地合いが継続すると予想される。レポ市場は、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、引き続きレートは横ばい圏で推移すると見られる。短国市場は、26日に3M物の入札が実施予定となっている。需給環境のレート水準への影響など、市場動向が注目される。CP市場は、26日にCP等買入オペが2,000億円で実施予定となっている。前回と同様に買入予定額が少ないため、ディーラーの期待感も薄いと考えられ、引き続き浅いマイナスで決着することが予想される。

主要なイベントとしては、25日にECB定例理事会、26日に4～6月期の米GDP速報値が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入